

38年間の通水試験（し尿脱理水）で異常なし

管頂部のpHが1～3となる管路（硫酸腐食環境下）で通水試験を38年間実施し、エポキシ樹脂粉体塗装管の健全性を確認。



通水実験管路の外観



38年間通水試験後の管内面の状況（下側が管頂部）

試験結果
異常なし

耐硫酸性、耐有機酸性試験でも異常なし

「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル（日本下水道事業団）」に基づき実験室で実施した試験で耐硫酸性だけでなく、耐有機酸性に優れることを確認。

耐硫酸性試験

10% 硫酸溶液に
60 日間浸漬

試験結果
異常なし



耐有機酸性試験

5% 酢酸溶液に
60 日間浸漬

試験結果
異常なし

POINT

「下水道施設計画・設計指針と解説～2019年版～」(日本下水道協会発行)において、「硫酸腐食環境下では、エポキシ樹脂粉体塗装の使用が推奨される」と記載されています。

K 株式会社 栗本鐵工所



パイプシステム事業部

この商品に関するお問い合わせは、
右記までお願い致します。

※ 記載内容は予告なく変更する場合があります。※ 無断転載を禁じます。

本社	〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号	☎ (06)6538-7641
東京支社	〒108-0075 東京都港区港南2丁目16番2号	☎ (03)3450-8510
北海道支店	〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目3番地	☎ (011)281-3302
東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1丁目12番30号	☎ (022)227-1873
名古屋支店	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1丁目17番23号	☎ (052)551-6932
中国支店	〒730-0035 広島市中区本通7番19号	☎ (082)247-4133
九州支店	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番11号	☎ (092)451-6623

KURIMOTO

下水道を支える

クリモトの ダクタイル鉄管

ダクタイル鉄管が使用されることの多い圧送管は
下水道施設の様々な場所で使用されています。

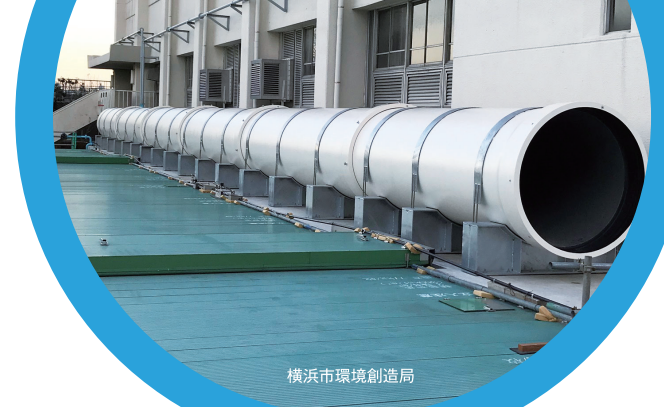
中継ポンプ場から処理場までの幹線

高低差のある地形

人口密集地域の幹線

汚水・汚泥の圧送

処理水の再利用



横浜市環境創造局



東京都下水道局



千歳市水道局
下水道整備課

Ductile Iron pipe



広島市下水道局

安定した下水道機能維持に貢献する — クリモトダクタイトイル鉄管

多様なラインナップで幅広いニーズに応えます

耐震継手（伸縮離脱防止継手）

GX形

呼び径：75～450

NS形

呼び径：75～1000

※図は呼び径500～1000

S形

呼び径：1100～2600

離脱防止継手

UF形

呼び径：800～2600

一般継手

K形

呼び径：75～2600

パイプ・イン・パイプ工法用

PN形

呼び径：300～1500

※図は呼び径700・800

下水道用ダクタイトイル鉄管のラインナップ

継手	適用規格	呼 び 径													
		75	100	150	200	250	300	350	400	450	500～700	800～1000	1100～1500	1600～2000	2100～2600
耐震 	JSWAS G-1	GX形※1													
		NS形												S形	
	JSWAS G-1 類似品認定							PN形				PN形			
		NS形（E種）※2													
離脱防止	JSWAS G-1													UF形	
一般	JSWAS G-1	K形・T形													K形
														U形	
	JSWAS G-1 類似品認定							ALW形※3							

※1 呼び径350及び450はJSWAS G-1類似品認定
※2 使用水压は1.3MPa以下 ※3 使用水压は1.0MPa以下

地震に強い鎖構造継手

液状化、地割れ、土砂崩れなどの災害時に効果を発揮します。耐震性向上に対応できる唯一の継手です。



継手が伸縮・屈曲し、かつ抜け出さない！

● 継手の伸縮と離脱防止機構の仕組み

圧縮時

引張時

屈曲

縮み

伸び・離脱防止

接合時位置

接合時位置

■ 地盤に追従

● 最大8°の屈曲角度（GX形）
● 管長の±1%の伸縮量

■ 抜け出し防止

● 30kNの離脱防止性能（D：呼び径）

下水道の強靱化には圧送管路に強いダクタイトイル鉄管を

- 二条化

重要施設と下水処理場間を圧送管路で二条化

病院や避難所となる学校などの重要施設と処理場をつなぐ管路は圧送管路で二条化し、バックアップ機能を持たせ、災害時のライフラインを維持させます。
- ネットワーク化

独立した処理施設を圧送管路でネットワーク化

災害で1つの処理場が機能停止した場合にも、別の処理場へ送水し処理することが可能となります。処理場改築時や能力超過時にも下水処理が可能です。

POINT

「下水道施設の耐震対策指針と解説 2014 年版」および「下水道施設計画・設計指針と解説 ～2019 年版～」(いずれも日本下水道協会発行)において、管路の二条化や施設のネットワーク化が推奨されています。

下水道圧送管路には下水用空気弁を

標準品 (0.75MPa) だけでなく、最高使用圧力 1.0MPa および 1.6MPa 仕様の製品も製作可能です。詳しくは弊社バルブシステム事業部のホームページ、および下水用空気弁カタログをご参照下さい。

